

2021 年度
自己点検評価年次報告書
【短期大学部】

目白大学短期大学部

部門別「自己点検評価年次報告書」の目的

目白大学・目白大学短期大学部内部質保証委員会

本学の内部質保証は、学長のリーダーシップのもと、大学の理念や方針に従い、現在の教育、研究、管理運営、社会貢献などの活動について、自らが現状を振り返り、向上と健全化を目指すために、ひたむきに改善を継続するプロセスが重要だと考えます。

その目的を果たすために、年度ごとの振り返りを行い、PDCAサイクルを用いた「報告書」で可視化することで、各教職員や各学科等の現在地や問題点の気づき、改善、あるいは維持のプロセスを確認し、本学の目標の再確認を行います。

この『部門別自己点検評価年次報告書』は、本学の教育活動の主軸である各学部、学科と附属施設及び委員会・センターの自己点検・自己評価です。各部門での教育の改革・改善の振り返りや次年度目標といった改善プロセスを大学内外に公開・共有することで、向上心と改革に前向きな姿勢を持続させ、教育の質の向上と健全化に取り組みます。

目 次

凡 例	1
短 期 大 学 部	3
各 種 委 員 会	19

凡 例

2022 年 9 月 1 日

本報告書に記載する項目の定義並びに数値の算出方法は以下の通りとします。

- 学生数（大学院・大学・短大）……正規課程所属の在学学生。研究生や科目等履修生は含まない。
- 留学生数（同上）……上記「学生数」の中の留学生数の内訳。研究生や科目等履修生は含まない。
- 専任教員数……大学学部と短大各学科における所属でカウントするほか、大学院に所属する教員はその専攻でも専任教員として、研究所に所属する教員はその研究所でも研究員としてカウントする。
(本学では人事取扱い上、全ての大学教員は学部または短大のみに専属し、大学院は当該研究科所属であっても併任扱いとなっているが、本報告書で全ての大学院教員をカウントしないことは実態から乖離し、本報告書の趣旨にそぐわないため)
- 授業科目数……その学期に設定されている授業科目の数。
 - ・学則に記載されている専門教育科目（学部共通部分を含む）、及び学科別開講の共通科目（キャリア形成科目、外国語、スポーツ・健康科目）を基準とする。ただし、履修登録前に閉講が確定している（隔年開講、旧カリキュラムの残存、教員急病など）科目はカウントしない。
 - ・1つの授業に複数のコマが設定されていても1科目と数える。
 - ・履修学生ゼロによる閉講科目は1科目と数える。
 - ・新カリキュラム・旧カリキュラムで科目名が変わるが同じコマで実施している場合は2科目・1コマでカウントする。
 - ・実習科目・卒業研究・留学期間の振替対応科目・臨地研修は1科目としてカウントするが、コマ数はカウントしない（学内で実習報告の授業等を行うことがあっても同様。さいたま岩槻キャンパスでの学内実習は除く）。
 - ・同一科目・コマで集合授業と分割授業を共に実施している場合（例：子ども学科の音楽）は、担当教員の給与支払い上の扱いに関わりなく1科目・1コマとカウントする。
 - ・再履修用授業を別途に実施している場合は、同一科目名であれば本体の授業と別扱いせず、コマ数のみ別にカウントする。
 - ・通年実施の科目、及び卒業研究や臨地研修など学期ごとに完結する実態のない科目は「通年／その他」に分類して数える。
 - ・同一科目を複数の学科の学生と一緒に履修する形態で実施している場合（例えば中国語と韓国語で1科目1コマ、児童教育と日本語で1科目3コマ）は、それぞれの学科に全コマ数を加算する（→前例の場合、中国語と韓国語に1科目1コマずつ、児童教育と日本語に1科目3コマずつ単純加算。この結果、全学科の合計コマ数が実態より多くなっている）。
 - ・学部共通の専門教育科目は科目数・コマ数ともに各学部所属学科に単純加算する（例えば、平成28年度データの場合、外国語学部の春学期13科目15コマ・秋学期16科目18コマは、英中韓日の4学科にそれぞれ単純加算。この結果、全学科の合計科目数・コマ数が実態より多くなっている）。

- 開講総コマ数……その学期に実際に開講（≠実施）されているコマ数の合計。
- ・学則に記載されている専門教育科目（学部共通部分を含む）、及び学科別開講の共通科目（キャリア形成科目、外国語、スポーツ・健康科目）を基準とする。
 - ・1つの授業に複数設定されているコマは別々に数える。
 - ・開講したが結果的に履修学生が開講基準以下で実施しない場合も、開講しているので1コマとしてカウントする。
 - ・担当教員が変更になっても開講されていれば数える。
 - ・7回授業の場合は0.5としてカウントする。また、非常勤講師の担当コマ数については実績に従い算出し、小数点第2位で四捨五入する。
- 進路状況……年度末で確定した、卒業生の進路状況。
- ・就職は正規雇用または非正規雇用（契約社員（1年以上）、契約社員（1年未満））で就職した卒業生、進学は大学院、大学、専門学校、留学が確定した卒業生、その他はアルバイト、家事手伝い、結婚、資格取得準備中、進学準備中、留学準備中、公務員試験準備中、科目等履修生、研究生、聴講生の卒業生とする。
- 論文数……シート提出組織（学科）に所属する1名以上の構成員が執筆した件数の合計。
- ・複数の構成員が共同執筆していた場合、その学科で1件と数える（1件の共同執筆論文について構成員の人数分だけ件数がプラスされることはない）。
 - ・他の学科教員が共同執筆者に含まれていた場合、それぞれの学科で1件と数える（この結果、全学科の件数合計は実際の論文件数より多くなる可能性がある）。
- 学会発表件数……シート提出組織（学科）に所属する1名以上の構成員が発表した件数の合計。
- ・複数の構成員が共同発表していた場合、その学科で1件と数える（1件の共同発表について構成員の人数分だけ件数がプラスされることはない）。
 - ・他の学科教員が共同発表者に含まれていた場合、それぞれの学科で1件と数える（この結果、全学科の件数合計は実際の発表件数より多くなる可能性がある）。
- 科研費助成金……シート提出組織（学科）に所属する1名以上の構成員が獲得した件数と金額の合計。
- ・複数の構成員が共同で獲得していた場合、その学科で1件と数える（1件の共同発表について構成員の人数分だけ件数がプラスされることはない）。
 - ・他の学科教員が共同研究者に含まれていた場合、それぞれの学科で1件と数えるが、配分額は当該年度の当該所属教員に配分された金額の合計とする（この結果、全学科の金額合計は実際の獲得金額総計と一致するが、件数合計は実際の獲得件数より多くなる可能性がある）。
- 特別研究費……シート提出組織（学科）に所属する1名以上の構成員が獲得した件数と金額の合計。

以上

短期大学部

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート4 (短大学長・学部長・研究科長)	評価対象年度	2021年度(令和3年度)
カテゴリー	教育課程(総括)		
学部名・研究科名	短期大学部		
記入者氏名(役職)	山田 隆文(学長)		

(1) 特筆すべき事項
<p>【教育(学生指導を含む)】</p> <p>① コロナ禍での遠隔授業は、実習関係の授業は動画配信等、種々の対応をしながらとどこおりなく実施することができた。卒業時に「卒業における学修成果アセスメントテスト基準」に従った試験を実施し、全員が合格した。前年度実施が出来なかったインターンシップは、コロナ前並の実績にほぼ回復した。製菓学科は感染対策をしつつ実習を実施し、卒業作品制作を実施することができた。歯科衛生士学科は感染対策をしつつ学内実習を実施し、臨床実習は開業医実習は予定通り、大学病院等は日数を減らして実習を行った。</p> <p>② メジプロ(e-ラーニング)の活用は3教科から5教科の習得を目指し、確認テストにより効果測定を実施した。</p> <p>③ 資格取得は2020年度に継続して低調であった(資格試験の方法の変更が大きな原因でもある)が、資格取得奨励金の授与者は回復傾向にある。</p> <p>④ 就職支援部において遠隔ではあったが全学生に面談を実施できたが、十分な就職支援が行えなかった。</p> <p>⑤ 「目白大学短期大学部特待生奨学金制度」には65名が受験し13名が合格し、優秀な学生の確保につながった。</p> <p>⑥ 大学への編入は10名(学内8名、学外2名)であった。</p> <p>【研究】</p> <p>① 研究紀要は前年度より多い13編の投稿、12編の採択と増加し、滞りなく発行することができた。</p> <p>② 研究発表会(短大FD)は年間8回実施し、各教員の研究テーマ等の共有を行った。また、研究交流会として、高校の進路指導部教員との交流会を実施、「新しい高等学校学習指導要領について」の知見を得た。</p> <p>③ 授業研究は、「学生による授業評価アンケート」を元に、各教員が積極的にスキルアップを行った。</p> <p>【管理運営】</p> <p>① 会議は2020年と同様に基本的にZoom開催としたが、情報共有は効率的に実施された。一方で、歓迎会、懇親会等の機会がなく、学科を超えたコミュニケーションの面で、新任教員の環境適応に時間がかかった。</p> <p>② ClassroomやZoom等のICTスキルの環境が整備され、これを活用して効果的な情報共有ができた。</p> <p>③ 2021年度の認証評価受審はオンラインで無事に終了し、「適格」との評価を得られた。</p> <p>④ 外部評価委員会を開催し、本学自己点検評価に対する客観的な意見を得られた。</p> <p>⑤ 2021年度より新たに「高大連携のための懇談会」「企業との懇談会」を実施し、ステークホルダーとの重要な意見交換を行った。</p> <p>【社会貢献】</p> <p>① 製菓学科は、Zoomではあったが、中高生を対象の体験実習を5回実施した。</p> <p>② 3学科とも、Zoomではあったが、公開講座を実施した。</p>

(2) 今後の課題
<p>【教育(学生指導を含む)】</p> <p>① 各教員がコロナ禍での授業で培ったノウハウを共有、活用し、授業方法の改善に役立てる。特に、多様な学生の入学に対して、修学支援や、休・退学防止のための支援体制を構築する。</p> <p>② 学力を向上させるための施策であるメジプロ(e-ラーニング)の効果測定結果を元に、効果の検証を行う。入学後のステップアップコースへの効スムーズな誘導を検討する。</p> <p>③ 国家資格(製菓衛生師、歯科衛生士)の全員合格を目指して学生支援体制を整備する。種々の資格取得へのサポート体制を更に充実させる。</p> <p>④ 就職環境が激変していることを踏まえ、学生への効果的な支援を検討・実施する。</p> <p>⑤ 「目白大学短期大学部特待生奨学金制度」を活用し、優秀な志願者の確保を継続する。</p> <p>⑥ 大学とのより柔軟な連携により、短期大学部からの編入の道を確保し、卒業生のキャリアアップにつなげる。</p> <p>【研究】</p> <p>① 教員の研究活動を活性化させ、紀要を含む研究活動成果の公表を推進する。</p> <p>② 学部資金等の獲得のための研究支援体制を構築する。</p> <p>③ 教員の自己研鑽、教育力向上のための支援体制を構築する。</p> <p>【管理運営】</p> <p>① 各学科の将来構想を元に、カリキュラム改革、教員の採用計画など、計画的な運営をめざす。</p> <p>② 学科を超えて教員間の懇談の機会を増やすことによる意思疎通を円滑化する。</p> <p>③ 学科を超えた情報の共有を徹底し、PDCAを意識しての運営を徹底する。</p> <p>【社会貢献】</p> <p>① 教員の研究成果の発信力アップのため、地域連携・研究推進センターと協力し、強化していく。</p> <p>② 学生の地域貢献を推進する仕掛けを作り積極的に進める。</p>

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		評価シート1	学科名	製菓学科				
評価対象年度			2021年度(令和3年度)					
入学定員		55名	専任教員数 (5/1現在)		特任内数	0名	博士内数	0名
収容定員		110名			教授	2名	0名	0名
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	64名			准教授	1名	0名	0名
	2年	52名			専任講師	2名	0名	0名
	3年	—名			助教	0名	0名	0名
	4年	—名			計	5名	0名	0名
計		116名	助手	3名	0名	0名		
留学生数 (5/1現在)	1年	0名	他学科等所属専任教員数(5/1現在)		8名			
	2年	0名	非常勤講師数(5/1現在)		8名			
	3年	0名	授業科目数	春学期	24コマ			
				秋学期	16コマ			
	計	0名		通年/その他	0コマ			
休学者数(年度末集計)		1名	開講総コマ数		春学期	63コマ	内非常勤 担当	18コマ
退学者数(年度末集計)		1名			秋学期	53コマ		18.5コマ
					通年/その他	0コマ		0コマ
進路状況 (年度末集計)	就職	44名	論文数 (年度末集計) ※刊行日基準		学会誌	0件	内国外	0件
	進学	5名			紀要	1件		0件
	その他	1名			その他	0件		0件
	計	50名						
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		0件	0千円	書籍等出版物		0件		
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件	0千円	学会発表件数(年度末集計)		0件	内国外	0件
社会貢献関連項目	件数	具体例						
産学連携(企業・団体)	0件	包括連携協定先である西武信用金庫との連携事業、東京物産・逸品見本市はコロナ禍によりタブロイド紙の食レポ・ボランティア学生による当日販売促進どちらも中止となった。						
地域連携(自治体・団体)	0件	体験実習、バレンタイン実習は動画配信で実施した。 「公開講座」は、事前に材料を参加者に送付し双方向型での開催を行った。						
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載	5件	東京和菓子協会本部理事(運営委員) 東京和菓子協会本部理事(監査役) 一般社団法人 日本食育学会 一般社団法人 東京都洋菓子協会 日本栄養改善学会						
その他社会貢献事業 (高大連携など)	0件							

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2021年度(令和3年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	製菓学科		
記入者氏名(役職)	伊藤 浩正(学科長)		

項目	2020年度 自己点検評価
教育(学生指導含む)	課題と2021年度の改善目標(Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 遠隔と対面になった場合、授業の進め方を検討する。 ② 退学者を最小限に抑える。 ③ 製菓衛生師試験の対策講座の改善を検討する。 ④ 感染対策を講じた上で、対面実習を実施する。 ⑤ 感染症の影響で内定が取り消されることがあったが、引き続き就職活動ができるよう指導する。
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 遠隔と対面になった場合、ハイブリッド型の授業を実施する。 ② 1年生に関しては入学後早い時期に個人面談を実施する。 ③ 欠席過多の学生は学科で情報共有して対応する。 ④ 製菓衛生師試験の全員合格を目指す。 ⑤ 学生には早い時期から就活の意識を持たせる。

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
教育(学生指導含む)	1. 取組状況(Do)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 実習授業に関しては対面授業を実施し、講義授業に関しては遠隔授業となった。 ② 退学者は1名となった。 ③ 製菓衛生師試験対策講座の改善に関して、検討はなされたが実際は引き続き前年度の方法で実施した。 ④ 実習授業は全面対面で実施し、実習内で感染者が出ることはなかった。 ⑤ 対面で学生と話す機会が増し就職活動について啓蒙ができた。
	2. 点検・評価(Check)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 2年生は対面授業は初年と同様となったので授業内容の見直しがなされた。 ② 複数回担任と協議したが、結論は変わらなかった。 ③ 次年度の対策講座に関して改善案を作成した。 ④ 学科独自の感染症対策を一貫して実施した。 ⑤ 就職相談の学生は増えたが、就職内定率は例年と同程度となった。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 全面対面での授業を実施するにあたり、授業内容を再検討する。 ② 退学者を最小限に抑える。 ③ 製菓衛生師試験対策講座の効果を検証した。 ④ 感染症対策を講じた上で対面授業を継続して実施する。 ⑤ 学生の就職に対する意識付けが不十分と思われるため、学科教員が連携して就職に関する意識の向上を目指す。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 継続して対面で実施できる授業内容か、見直しを図る。 ② 欠席過多、体調不良の学生は、学科で情報共有し、早期に対策を講じる。 ③ 製菓衛生師試験対策講座の実施方法の見直しを図る。 ④ 体調管理ノートへの記入、検温など学科独自の対策を続ける。 ⑤ 毎月初旬に就職活動進捗状況報告書に記入してもらい、常に就職について前向きな意識を付けさせる。

項目	2020年度 自己点検評価
研究	課題と2021年度の改善目標(Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 短大研究発表会に向けて発表の準備をする ② 紀要の投稿本数を伸ばす。構成員の半数を目標とする。 ③ ゼミは作品の向上につながる指導に努める。
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 短大研究発表会に向けて発表の準備をする。 ② 紀要の投稿を促す。 ③ ゼミは作品の向上につながる指導になるよう研鑽に努める。

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況(Do) ① 短大研究発表会では2名の発表がなされた。 ② 紀要の投稿をするよう促した。 ③ ゼミの卒業制作課題は卒業年次生全員が期日内に提出できた。
	2. 点検・評価(Check) ① 担当予定回に滞りなく発表がなされた。 ② 紀要の投稿を促したが目標の本数には及ばなかった。 ③ 期日内に仕上げることも技術の向上であり、向上につながる指導はできている。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action) ① 短大研究発表会に向けて発表の準備をする。 ② 引き続き紀要の投稿本数を伸ばす。構成員の半数を目標とする。 ③ ゼミは作品の向上につながる指導に努める。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 滞りなく発表ができるよう、発表の準備をする。 ② 紀要の投稿を促す。 ③ ゼミは作品の向上につながる指導になるよう研鑽に努める。

項目	2020年度 自己点検評価
管理運営	課題と2021年度の改善目標(Action) ① 前年度対面、本年度全面遠隔、そして次年度は対面と遠隔の両面での授業形態になるので、本年度の経験を活かして対応する。 ② 学科長連絡会により3学科共通の課題の解決に努める。 ③ 学科内人事計画について、早期の対応に努める。 ④ 遠隔授業における保護者への対応について、大学として、保護者対応する機関(窓口)を設置を検討する。 ⑤ 受験生対応について、Web個別面談はコロナ禍、安全に面談することができるが画面越しや画面OFFでの面談は例年通りにいかず、課題となった。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 遠隔で作成、使用した資料等を活かし、ICTを取り入れて授業を実施する。 ② 学科長連絡会を定期的に開催し、課題解決に向けて3学科協力する。 ③ 学科内人事計画について、助手の任用については春学期中に任用申請の手続きをする。 ④ 遠隔授業における保護者対応についての窓口を設ける。 ⑤ 受験生対応について、2021年度は対面での個別面談を実施する。

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況(Do) ① 対面と遠隔の両面での授業形態となったが、過去2年の経験を活かして双方に対応した。 ② ほぼ毎月連絡会を開催し課題解決に努めた。 ③ 任期満了の助手の後任人事について、早期より募集を行った。 ④ 対面授業と遠隔授業を実施することになったが、保護者対応は必要に応じて学科で対応した。 ⑤ 受験生対応については、感染症拡大の観点からWeb個別面談を実施した。
	2. 点検・評価(Check) ① 感染症対策を講じて滞ることなく実施でき、遠隔で作成、使用した資料等を活かし、ICTを取り入れて授業を実施した。 ② 定期的に連絡会を開催し、課題解決に向けて協議できた。 ③ 厳正、慎重に書類審査及び面接を実施し、適任者を採用することができた。 ④ 対面授業と遠隔授業を実施することで、保護者からの問い合わせはほとんど無くなった。 ⑤ 対面と違い、画面だけで面談することは難しかったが、前年度の経験から報告書の内容は向上している。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action) ① 登校しての対面授業になるので、引き続き感染症対策を講じて授業実施をする。 ② 学科長連絡会により3学科共通の課題の解決に努める。 ③ 学科内人事計画について、早期の対応に努める。 ④ 再度遠隔での授業実施になった場合、保護者対応体制を検討する。 ⑤ 受験生対応について、感染症対策を講じて対面での個別面談を目指す。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 体調管理ノートへの記入、検温など学科独自の対策を続ける。 ② 学科長連絡会を定期的に開催し、課題解決に向けて3学科協力する。 ③ 学科内人事計画について、春学期中に学科内で協議し任用申請の手続きをする。 ④ 遠隔授業における保護者対応についての窓口を設ける。 ⑤ 感染症対策を講じて予約制、人数制限などを取り入れ個別面談を実施する。

項目	2020年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2021年度の改善目標(Action) ① 体験実習、公開講座、バレンタイン実習を対面で実施できるよう準備する。 ② 企業との連携に関しては、引き続きふさわしい相手先を検討する
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 体験実習、公開講座、バレンタイン実習は実習内容を見直し、時間短縮で実施する。 ② 連携先に関しては相手先の規模、連携内容について学科内で協議して決める

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会 貢 献	1. 取組状況 (Do) ① 体験実習、公開講座、バレンタイン実習はWebで実施した。 ② コロナ禍ではあるが企業との連携に関して検討した。
	2. 点検・評価 (Check) ① 体験実習、バレンタイン実習は動画配信で行ったが、公開講座は事前に材料を参加者に送付し双方向型での開催を行った。 ② コロナ禍企業との連携はできなかった。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action) ① 体験実習、公開講座、バレンタイン実習を対面で実施できるよう準備する。 ② 企業との連携に関しては、引き続きふさわしい相手先を検討する。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan) ① 体験実習、公開講座、バレンタイン実習は実習内容を見直し、時間短縮で実施する。 ② 連携先に関しては相手先の規模、連携内容について学科内で協議して決める。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1	学科名	ビジネス社会学科				
評価対象年度				2021年度(令和3年度)					
入学定員		75名	専任教員数 (5/1現在)			特任内数	博士内数		
収容定員		150名				教授	5名	0名	0名
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	81名				准教授	1名	0名	0名
	2年	93名				専任講師	3名	0名	1名
	3年	—名				助教	1名	0名	0名
	4年	—名				計	10名	0名	1名
計		174名	助手	2名	0名	0名			
留学生数 (5/1現在)	1年	0名	他学科等所属専任教員数(5/1現在)		2名				
	2年	0名	非常勤講師数(5/1現在)		23名				
	3年	0名	授業科目数	春学期	22コマ				
	4年	0名		秋学期	28コマ				
	計	0名		通年/その他	0コマ				
休学者数(年度末集計)		1名	開講総コマ数	春学期	43コマ	内非常勤 担当	8コマ		
退学者数(年度末集計)		6名		秋学期	49コマ		16.4コマ		
				通年/その他	0コマ		0コマ		
進路状況 (年度末集計)	就職	74名	論文数 (年度末集計) ※刊行日基準	学会誌	5件	内国外	0件		
	進学	13名		紀要	7件		0件		
	その他	4名		その他	件		0件		
	計	91名		書籍等出版物			3件	0件	
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		0件	0千円	学会発表件数(年度末集計)		9件	内国外	0件	
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件	0千円						
社会貢献関連項目	件数	具体例							
産学連携(企業・団体)	0件								
地域連携(自治体・団体)	1件	①本郷法人会 文京区本郷法人会 中小事業者がより自立した経営を目指すための講座の実施							
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載	6件	①秘書サービス接遇教育学会 会長、理事 ・秘書サービス接遇教育学会の全国大会はコロナ禍のためリモートでの開催となり、研究集録の発刊も通常通り行った。 ②日本秘書クラブ会長 会長 ・実務技能検定協会が管轄するビジネス系検定の講習、試験の実施等の委託を日本秘書クラブが受けている。 ・コロナ禍ではあったが、全国の支部がその任に当たった。実務技能検定協会との連絡等で役割を果たした。 ③日本インターンシップ学会 理事 ④実務技能検定協会 評議員 ⑤日本ビジネス実務学会 本部理事、東北・関東支部運営委員 ⑥実務技能検定協会 監修 ・ビジネス系検定の検定問題の校閲を行った。							
その他社会貢献事業 (高大連携など)	0件								

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2021年度(令和3年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	ビジネス社会学科		
記入者氏名(役職)	上岡 史郎(学科長)		

項目	2020年度 自己点検評価
教育(学生指導含む)	課題と2021年度の改善目標(Action)
	<p>① カリキュラムツリーとカリキュラムマップ、科目ナンバリングの有効活用を目指す。</p> <p>② 次年度も遠隔授業が続くが、授業内容によって遠隔授業と対面授業の割り振りを検討し、充実した教育を受けられるように務める。</p> <p>③ 引き続き年度初めの科目履修計画シートの作成による学習意欲の涵養と、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートを作成することによって学校生活のPDCAを行っていく。</p> <p>④ 春、秋の成績表配布など、保護者への情報提供を積極的に進めていく。</p> <p>⑤ アフターコロナ後にどのような授業スタイルが学生の満足度を高めることができるのかをひきつづき検討する機会を設ける。</p> <p>⑥ 遠隔から通学している学生や地方から入学している学生が多くなる中で、ハイブリッド型の保護者会実施も検討していく。</p> <p>⑦ メジプロについてベーシックコースは国、数、英に加え理科と社会も必須とし、ステップアップコースは国、数、英の3科目を必須とし全員の修了を目指す。また、進捗状況のチェックは毎月の学科会議後のFD委員会で行うことで、教員全員で全学生の進捗状況を把握していく。</p>
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<p>① DPIにもとづくカリキュラムツリーとカリキュラムマップ、科目ナンバリングの関連性を見直し、履修登録前の段階での学生への周知を行っていく。</p> <p>② 教務委員と学科長が連携をし、実習系の科目など対面授業の方が学習成果が高まる授業をピックアップし対面授業を実施できるように計画していく。</p> <p>③ 例年に引き続き年度初めの科目履修計画シートの作成と、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートを作成することで学校生活のPDCAを行っていく。</p> <p>④ 例年に引き続き春、秋の成績表配布のほか、学科新聞の送付など保護者への情報提供をより積極的に進めていく。</p> <p>⑤ 学科会議後のFD委員会などを通して、学生の満足度向上の方法をひきつづき検討する機会を設ける。</p> <p>⑥ 遠隔から通学している学生や地方から入学している学生が多くなる中で、ハイブリッド型の保護者会実施する。</p> <p>⑦ メジプロについてベーシックコースは国、数、英だけでなく、理科、社会を必須にすることで学習基礎力の向上を目指す。また、進捗状況については、引き続き毎月のFD委員会で、教員全員で把握を行う。</p>

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
教育(学生指導含む)	1. 取組状況(Do)
	<p>① 学生便覧(履修要項)にカリキュラムツリーを掲載し、年度初めのベーシックセミナーを通して学生への周知を図った。カリキュラムマップや科目ナンバリングを作成し、学生ネットサービスを通して学生に周知できる体制を整えた。</p> <p>② 2021年度は遠隔と対面の併用での授業実施となった。実習科目と2年生の1部の科目は対面で実施し、講義科目は遠隔中心での授業を行った。</p> <p>③ 年度初めの科目履修計画シートの作成による学習意欲の涵養と、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成を行った。</p> <p>④ 例年に引き続き春、秋の成績表配布のほか、学科新聞の送付など保護者への情報提供をより積極的に進めた。</p> <p>⑤ 2021年度はアフターコロナの状態までには至らず、授業も遠隔と対面の両方で実施する状態となった。</p> <p>⑥ 2021年度保護者会は、コロナウイルス感染拡大の影響から全体会はオンデマンドで、学科分科会はリモートによる開催となった。</p> <p>⑦ メジプロについてベーシックコースは国、数、英を入学前までの必須課題とし、理科、社会を入学後の必須課題(ベーシックセミナーの単位取得条件)とすることで全員が修了した。ステップアップコースについては秋学期キャリアデザインの単位取得条件とし全員が修了することで学習基礎力の向上を図った。また、進捗状況については、引き続き毎月のFD委員会の中で教員全員で把握を行った。</p>
	2. 点検・評価(Check)
	<p>① カリキュラムツリー、カリキュラムマップ、科目ナンバリングともに、作成し、便覧や学生ネットサービスに掲載したが、学生が履修登録等で活用するレベルまでには至らなかった。</p> <p>② 2020年度に遠隔授業のノウハウを蓄積できたため、遠隔授業自体はスムーズに実施することができた。ただ2年生は1年次がすべて遠隔で、2年次も一部対面で遠隔が多かったため、学生生活を十分に楽しめたとはいえない状態で卒業を迎えることとなってしまった。</p> <p>③ 年度初めの科目履修計画シートの作成と、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成は行うことで、学生個人が学期ごとに振り返りを行っているが、深い段階までの振り返りになっていない。</p> <p>④ 春、秋の成績表配布のほか、学科新聞の送付など保護者への情報提供を行うことで、学科の取り組みを保護者に周知することができた。</p> <p>⑤ 2020年度がすべて遠隔授業であったことからすると、2021年度は対面で授業を行うことができ学生生活を充実させることができた。</p> <p>⑥ 保護者会について、コロナウイルス感染拡大の影響からリモートでの開催となったが、例年より少し多めの19名の参加者となり、遠方の保護者の方も参加できたことがよかった。</p> <p>⑦ メジプロについてベーシックコースはすべての学生が入学後に5科目を修了し、ステップアップコースも秋学期に全員が修了することができた。また、進捗状況については、引き続き毎月のFD委員会で、教員全員で進捗状況の把握を行った。</p>
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)
	<p>① カリキュラムツリー、カリキュラムマップ、科目ナンバリングについて、それぞれのフィールドを担当する教員と内容についてのチェックを行うとともに、学生への理解を促進するための方法を検討する。</p> <p>② 2022年度はすべての授業が対面授業となり、コロナ前の状態に戻っての授業となる。学生の学習態度・状況をしっかりと把握することができるようになるので、対面ならではのきめ細かな指導を行っていく。</p> <p>③ 例年通り科目履修計画シートの作成と、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成は行うとともに、学生個人がより深い振り返りができるようにしていく。</p> <p>④ 例年に引き続き春、秋の成績表配布のほか、学科新聞の送付など保護者への情報提供をより積極的に進めていく。</p> <p>⑤ 2022年度はすべての授業が対面授業となり、コロナ前の状態に戻っての授業となる。通常授業だけでなく、対面授業でのアクティブラーニングや学校行事にも積極的に参加することで学生生活が充実したものになるようにサポートしていく。</p> <p>⑥ コロナウイルスの影響だけでなく、リモートで行うことで遠隔の保護者も参加していただいたことを受けて、対面と遠隔の双方での実施も検討する。</p> <p>⑦ メジプロについて各分野の締め切りまでに終わられない学生がいた。1年生クラス担任が学生の進捗状況を確認しつつフォローを行っているが、学習意欲などから学習が進まない学生に対するフォローの方法について検討する。</p>
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

	<ul style="list-style-type: none"> ① 1年生履修登録前のオリエンテーション時にフィールドごとのモデル時間割を作成し、履修指導を行っているが、その時にカリキュラムツリー、カリキュラムマップ、科目ナンバリングについての説明も行い、それらを理解したうえで履修登録を行うようにする。 ② 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を共有しているが、メジプロ進捗状況や出席状況、就活動向だけでなく、それぞれの授業での様子なども情報共有していく。 ③ 例年通り科目履修計画シートの作成と、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成は行うとともに、学生個人がより深い振り返りをどのようにしていくかを学科内で検討する。 ④ 例年に引き続き春、秋の成績表配布のほか、学科新聞の送付など保護者への情報提供をより積極的に進めていく。 ⑤ 実習授業を中心に対面授業ならではのアクティブラーニングを取り入れた授業に力を入れる。講義科目や演習科目についても、直接学生と直接関わること、学生への指導を決め細かく行っていく。 ⑥ 保護者の方に来校していただく対面型の説明会に加えて、同時並行で遠隔の保護者に対してリモートで説明会を行う方向で検討する。少しでもたくさん保護者の方に参加していただける環境を作っていく。 ⑦ 毎月の学科会議終了後のFD委員会でメジプロの進捗状況を確認しているが、その中で学習が進まない学生に対しての支援策を検討していく。
--	--

項目	2020年度 自己点検評価
研究	課題と2021年度の改善目標 (Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 紀要への投稿や学会での報告、論文投稿などを積極的に行っていく。 ② 教授会後の研究報告会では、今年度も報告担当となる教員の報告を行い、教員相互の研究についての情報共有を行っていく。 ③ 授業参観の参加率を高めることで、他の教員の教育技法を学び、学生への教育効果の向上に務める。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 新任の教員や任期を更新した教員を中心に、紀要や学内論集への投稿、学会での報告や論文投稿を積極的に行っていく。 ② 教授会後の研究報告会以外の場でも、例えば学科内FD研究報告会などを開催するなど教員の研究について相互に知る機会を増やす。 ③ 学科のすべての教員が授業参観に参加し、積極的に他の教員の教育技法を学ぶことで学生への教育効果の向上を目指す。

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況 (Do)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 論文数(刊行日基準)は学会誌に5件、紀要に7件、書籍出版物は3件、学会等での発表は9件となった。 ② 教授会後の研究報告会では、報告担当となる教員が報告を行い、教員相互の研究についての情報共有を行うことができた。 ③ すべての教員が授業参観を行ったが、学科FD委員会で教員研究を相互に知る機会を持つことはできなかった。
	2. 点検・評価 (Check)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 論文や書籍、学会での発表等で先生方個人の研究活動は積極的に行うことができた。 ② 2021年度に就任した教員を中心に教授会後の研究報告を行った。 ③ 教員相互の授業参観を通して、教育技法を修得するとともに、授業者側の教員へのフィードバックを行うことで、学生への教育効果を高めることができた。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
<ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き、紀要への投稿や学会での報告、論文投稿などを積極的に行っていく。 ② 2022年度に就任した教員に加えて、様々な教員の研究報告を行っていく。 ③ 引き続き、授業参観の参加率を高めることで、他の教員の教育技法を学び、学生への教育効果の向上に務める。 	
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き、紀要への投稿や学会での報告、論文投稿などを積極的に行っていく。 ② 2022年度に就任した教員に加えて、様々な教員の研究報告を行っていく。 ③ 学科のすべての教員が授業参観に参加し、積極的に他の教員の教育技法を学ぶことで学生への教育効果の向上を目指す。

項目	2020年度 自己点検評価
管理運営	課題と2021年度の改善目標 (Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができる体制を整える。 ② 認証評価の報告書の内容を深く理解し、オンライン会議をスムーズに行える体制を整える。 ③ 遠隔授業も実施が予定される中でGoogle ClassroomなどのITCツールを活用することで、学生のコミュニケーションをスムーズにとれる体制を整える。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 学科共有のgoogleドライブを活用することで、共有すべきデータを教員がいつでも活用することができるようにする。 ② 認証評価受審に向けて、関係する教職員の報告書内容確認の場を設定し、内容の確認作業を進めていく。 ③ 教員間において必要な学科情報、学生情報等は共有し、学生に発信する情報はGoogle Classroomを活用し、教員や学生にとって必要な情報を常に確認することができる体制を整える。

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況 (Do)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができる体制を整えることができた。 ② 認証評価ワーキンググループの教員を中心に認証評価の報告書の内容を深く理解し、オンライン会議をスムーズに行うことができた。 ③ 対面授業、遠隔授業に関わらず、Google ClassroomなどのITCツールを活用することで、学生のコミュニケーションをスムーズにとれる体制を整えることができた。
	2. 点検・評価 (Check)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 学科共有のgoogleドライブで様々な学生情報を共有することができた。これにより、全教員がすぐに対応しなければならない学生を把握することができるようになった。 ② 認証評価オンライン会議に向けて、しっかりと準備を行った結果、オンライン会議をスムーズに実施することができ、年度末に「適格」の評価を受けることができた。 ③ 2020年度に培ったオンライン授業のノウハウを対面授業でも生かす体制を整えることができ、学生とのコミュニケーション手段の充実化を図ることができた。

□	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 引き続き学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができる体制を整える。
	② 7年後の認証評価に向けて、今回の3つの意見を精査し、次回に向けて準備を行っていく。
	③ 引き続きGoogle ClassroomなどのITCツールを活用することで、学生のコミュニケーションをスムーズにとれる体制を整えていく。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 引き続き学科共有のGoogleドライブを活用することで、共有すべきデータを教員がいつでも活用することができるようにする。
	② 7年後の認証評価に向けて、今回の3つの意見を精査し、次回に向けて準備を行っていく。
	③ 引き続きGoogle ClassroomなどのITCツールを活用するとともに、学生とのコミュニケーション手段として、よりよいITCツールの活用を検討していく。

項目	2020年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2021年度の改善目標 (Action)
	① 高校生向けの公開講座や学科新聞の送付など高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールする方法を検討する。
	② 地域向けの公開講座も、対面で行うだけでなく、遠隔での開催も視野に入れながら、幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールしていく。
	③ 学科の知名度を高めるためにも教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わる機会を作っていく。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
① 年間を通しての高校生向けの公開講座や学科新聞の送付など計画し、継続的に高校生や高校側とのつながりを維持していく。	
② 対面または遠隔、ハイブリッド等も視野に入れ、地域向けの公開講座を実施する。	
③ 学会活動に積極的に参加する。発表や論文投稿を行う。	

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会貢献	1. 取組状況 (Do)
	① 学科新聞の送付など高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールすることができた。高校生向けの公開講座についてはコロナ禍のため中止とした。
	② 地域向けの公開講座を、遠隔で開催することができ、幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールすることができた。
	③ 学会の会長や理事、運営員、また検定協会の本部理事などさまざまな役職に学科の教員が携わった。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 学科新聞は年度初めの予定通り年3回の発行を行い、指定校を中心に郵送することで、ビジネス社会学科をアピールすることができた。
	② 地域向けの公開講座を遠隔で開催することによって、コロナ禍の中でも公開講座を実施することができ、幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールすることができた。
	③ 学会の会長や理事、運営員、また検定協会の本部理事などさまざまな役職に学科の教員が携わることでビジネス社会学科の知名度を高めることができた。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 引き続き学科新聞の送付など高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールしていく。
② 2022年度も地域向けの公開講座を遠隔で実施することを検討する。入学対象者だけでなく、幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールしていく。	
③ 学科の知名度を高めるためにも、引き続き学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わる機会を作っていく。	
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 2022年度も年3回の学科新聞を発行し、ビジネス社会学科の存在を高校側にアピールしていく。
	② 2022年度もビジネス社会学科から講師を1名選出し、公開講座実施に向けて準備を行っていく。遠隔での実施についても検討していく。
	③ 引き続き学会活動に積極的に参加し、発表や論文投稿を行う。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1	学科名	歯科衛生学科			
評価対象年度				2021年度(令和3年度)				
入学定員		60名	専任教員数 (5/1現在)		特任内数	博士内数		
収容定員		180名			教授	6名	1名	6名
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	68名			准教授	1名	0名	0名
	2年	44名			専任講師	2名	0名	0名
	3年	27名			助教	3名	0名	1名
	4年	—名			計	12名	1名	7名
	計	139名	助手	1名	0名	0名		
留学生数 (5/1現在)	1年	0名	他学科等所属専任教員数(5/1現在)		15名			
	2年	0名	非常勤講師数(5/1現在)		17名			
	3年	0名	授業科目数	春学期	33コマ			
				秋学期	26コマ			
	計	0名		通年/その他	1コマ			
休学者数(年度末集計)		2名	開講総コマ数	春学期	41コマ	内非常勤 担当	6.4コマ	
退学者数(年度末集計)		2名		秋学期	25.5コマ		2コマ	
				通年/その他	10コマ		0コマ	
進路状況 (年度末集計)	就職	22名	論文数 (年度末集計) ※刊行日基準	学会誌	3件	内国内 国外	0件	
	進学	1名		紀要	5件		0件	
	その他	2名		その他	0件		0件	
	計	25名		書籍等出版物			0件	0件
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		0件	0千円	学会発表件数(年度末集計)		1件	内国内 国外	0件
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		1件	250千円					

社会貢献関連項目	件数	具体例
産学連携(企業・団体)	2件	・三菱自動車エンジニアリング株式会社 研修講師 ・小林製薬 共同開発研究事業(唾液中の抗ウイルス物質の分泌を促進させインフルエンザの予防効果の向上を図るサプリメント開発)
地域連携(自治体・団体)	1件	・高齢者福祉施設「特別養護老人ホームパール代官山」地域交流イベント
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載	9件	・一般社団法人 日本口腔衛生学会 代議員 ・一般社団法人 日本口蓋裂学会 評議員 ・一般社団法人 日本障害者歯科学会 代議員 ・日本歯科衛生教育学会 常任理事 ・一般社団法人 日本口腔感染症学会 理事 ・日本唾液腺学会 評議員 ・全国歯科衛生士教育協議会関東甲信越地区会 理事・監事 ・全国大学歯科衛生士教育協議会 理事 ・一般財団法人 歯科医療振興財団 歯科技工士試験委員
その他社会貢献事業 (高大連携など)	3件	・東京都立第五商業高等学校 WEB進路ガイダンス(模擬講義) ・創玄書道会(第57回創玄展漢字部第一科で秀逸を受賞、第46回創玄現代書展へ出品) ・毎日書道会(第72回毎日書道展へ出品)

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2021年度(令和3年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	歯科衛生学科		
記入者氏名(役職)	内橋 賢二(学科長)		

項目	2020年度 自己点検評価
教育(学生指導含む)	課題と2021年度の改善目標(Action)
	<p>① 2021年度もハイブリッドの授業形態が継続するが、引き続き効果的な授業方法を検討する。</p> <p>② 実習科目においては、感染予防に留意しつつ、学生が到達目標にできるだけ近づく授業方法を検討する。</p> <p>③ 授業開始前のMeet、Zoomのテストミーティングを含め、引き続き学科教員全員で履修指導に取り組む。</p> <p>④ e-learning【メジプロ】の取り組み指導を強化し、確実な修了を目指す。</p> <p>⑤ 2年次の「キャリアデザイン」にて就職・キャリア支援を実施し、3年次で学外実習及び遠隔授業で登校機会のない学生のキャリア支援を工夫する。</p>
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<p>① 実習科目では各学生の様子をできるだけ観察する。遠隔授業においてもアクティブラーニングと学生の交流の機会をできるだけ設ける。</p> <p>② 実習科目においては、状況の変化に合わせて対応できるよう代替案を準備しておく。2年次の学外実習開始前にはOSCE(客観的臨床能力試験)を行うとともに、1年次にそれを予告し、学生のモチベーションを高める指導を行う。</p> <p>③ 新入生には授業開始前のMeet、Zoomのテストミーティングを行う。学生全員との面談(Web面談含む)、必要に応じた保護者との3者面談を行う。</p> <p>④ 「ベーシックセミナー」にて、「ベーシックコース」の確実な修了の指導を行う。「ステップアップコース」への取り組みについては、秋学期の授業外でGoogle Classroom等を活用して指導を行う。</p> <p>⑤ 「キャリアデザイン」にて、就職・キャリア支援を実施する。3年次生を対象に学科独自で就職・キャリア支援のGoogle Classroomを開設し、遠隔での情報提供、就職・キャリア支援を実施するとともに、ゼミ担当教員等が個別相談等を行う。</p>

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
教育(学生指導含む)	1. 取組状況(Do)
	<p>① 実習科目では各学生の様子を十分観察し、各学生の進捗状況を可能な限りの分析を行なった。</p> <p>② 実習科目では、状況の変化に合わせて対応できるよう代替案を準備してしたが、対応が不十分な場合もあった。3年次秋学期の臨床実習開始前に、OSCE(客観的臨床能力試験)を実施することにより、学生のモチベーションの向上が見られた。</p> <p>③ 新入生には授業開始前のMeet、Zoomのテストミーティングを実施したが、面談(Web面談含む)は一部の学生にとどまった。問題を抱える学生の保護者とはWebによる3者面談を行なった。</p> <p>④ 「ベーシックセミナー」にて、「ベーシックコース」への取り組みに対する指導が不十分で全員終了が達成できなかった。また、「ステップアップコース」への取り組みに対する指導も不十分であった。</p> <p>⑤ 3年次生を対象に就職・キャリア支援のGoogle Classroomを開設し、遠隔での情報提供した。ただし、ゼミ担当教員等が就職・キャリア支援個別相談等は十分でなかった。</p>
	2. 点検・評価(Check)
	<p>① コロナ禍で遠隔授業が主であったので、アクティブラーニングの導入は不十分であった。シラバスに「事前学習・事後学習」で具体的な課題等に対する必要な時間を記載し周知を図った。</p> <p>② 実習科目では、状況の変化に合わせて対応できるよう代替案を準備してしたが、対応が不十分な場合もあった。3年次秋学期の臨床実習開始前に、OSCE(客観的臨床能力試験)を実施することにより、学生のモチベーションの向上が見られた。</p> <p>③ 新入生には授業開始前のMeet、Zoomのテストミーティングを実施したが、面談(Web面談含む)は一部の学生にとどまった。問題を抱える学生の保護者とはWebによる3者面談を行なった。</p> <p>④ 「ベーシックセミナー」にて、「ベーシックコース」への取り組みに対する指導が不十分であった。特に、「ステップアップコース」への取り組みに対する指導が不十分であった。</p> <p>⑤ 3年次生を対象に就職・キャリア支援のGoogle Classroomを開設し、遠隔での情報提供した。ただし、ゼミ担当教員等が就職・キャリア支援個別相談等は十分でなかった。</p>
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)
	<p>① 「事前学習・事後学習」の分量について検討し、教員からの具体的な指示・指導内容を検討する。</p> <p>② OSCE(客観的臨床能力試験)の実施にあたって、学生のモチベーションの向上のために、実施内容をあらかじめ公開する。</p> <p>③ 新授業開始前のMeet、Zoomのテストミーティングは実施が困難なため、学生との面談を実施する。</p> <p>④ 「ベーシックコース」への取り組みに対する指導が不十分で全員終了が達成できなかった。また、「ステップアップコース」への取り組みに対する指導も不十分であった。</p> <p>⑤ 3年次生を対象に就職・キャリア支援のGoogle Classroomを開設し、遠隔での情報提供と、ゼミ担当教員による就職・キャリア支援個別相談を実施する。</p>
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<p>① アクティブラーニングに適した教室を選定し、</p> <p>② OSCE(客観的臨床能力試験)の実施にあたって、知識試験を追加する。また事前に実施内容について十分な説明を行い、さらなるモチベーションの向上を計る。</p> <p>③ 担任と学生との個別面談を年2回程度実施し、問題を抱える学生の保護者を含めた3者面談を早期に行う。</p> <p>④ 「ベーシックコース」の達成率を100%。また、「ステップアップコース」の達成率も50%以上に向上させる。</p> <p>⑤ 遠隔での情報提供と、ゼミ担当教員による就職・キャリア支援個別相談を実施し、就職状況を教員で共有し、記録として追跡調査の土台とする、</p>

	⑥ 短期大学のHPやTwitterやInstagramなどのSNSのさらなる活用および学科新聞の発行等により、広報活動を強化するほか、高校への出張講義なども積極的に行う。
--	---

項目	2020年度 自己点検評価
研究	課題と2021年度の改善目標 (Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究成果は毎年出るとは言い難いが、少なくとも数年ごとに学会発表および論文執筆等の実績に結び付いた公表努力が望まれる。 ② 教育の質的向上は何よりも教員の研究活動の活性化が不可欠であり、今後積極的な外部資金等の獲得努力が望まれる。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 学科会や教員個人面談の折など様々な機会をとらえて教員一人一人に繰り返し研究活動の活性化を促していく。 ② 研究成果がなくとも一律配分の方式は検討の余地があるかと考えられる。まずは、科学研究費補助金などに応募しなかった教員に理由書の提出なども考えられる。

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況 (Do)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究発表は学外学会が少なく、主に短大のFD発表会に留まっている。 ② 科研費等の外部資金の調達は行っていない。
	2. 点検・評価 (Check)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 学外での学会発表および学内FDでの発表が複数あった。学科独自では、臨地・臨床実習会議等で学生実施した他、短大では外部講師を招いて研究交流会を開催した。 ② 研究活動が不十分なために、連携企業の開拓、産学共同事業の開拓が進んでいない。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 紀要には昨年度よりも多い5編の投稿があった。専門学会等への発表は1題あり、外部学会誌は投稿は3題あった。外部学会での発表が1題に留まっており、学会発表数の増加に努める。 ② 研究発表会・研究交流会・FDを継続して実施し、外部講師を招く等、さらなる研究活動の組織的な活性化を図る。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き学会誌・紀要等への活発な論文投稿活動へのサポート体制をつくる。 ② 研究推進体制を構築し教員の研究活動を支援し、若手研究者の科学研究費補助金への応募率向上に努め、学科内での共同研究の推進を図る。

項目	2020年度 自己点検評価
管理運営	課題と2021年度の改善目標 (Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 日常的に情報の共有を心がけ、とりわけ学生の動向把握には引き続き十分に意を尽くす。 ② 学生が健康と安全に留意し、楽しくそして充実した有意義な学生生活を送ることができるよう引き続き支援に努める。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 学科の教育活動、研究活動を始めとする諸活動の円滑な運営・実施・進行に関する検討・調整に努める。 ② 就学支援活動の総括である学科長と各学年担当や学生委員、教務委員が緊密に連携して日常的な学生の状況把握と迅速な対応に努める。

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況 (Do)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究業績プロの成果実績報告書と目標設定計画書を基に、面談を実施した。 ② 学生の個別面談を全学年で行なった。
	2. 点検・評価 (Check)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 個別の学生情報については十分に収集されているが、情報の集約化と教員間での共有が十分に行われなかった。 ② 学生の個別面談の結果、多くの情報が収集できたが、教員間の情報共有が不十分であった。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 全教員が「自己点検評価」「教育研究業績書」「授業評価アンケートに基づく自己点検評価報告書」を作成し、面談を通して自己点検評価とする体制を軌道に乗せる。 ② 各教員の適性や経験を踏まえ、適材適所の役割分担を考慮した担当者の配置、校務の効率化・平準化を図る。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 効率よく職務を運営できるよう、学科内における各自の役割分担を明確にする。 ② 必要に応じて、委員会を立ち上げ、臨機応変に事態を解決するよう取り組む。

項目	2020年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2021年度の改善目標 (Action)
	① 超高齢社会を迎え、人々の保健・医療・福祉に対する関心は高く、これらの分野の教育研究を行う本学科は様々な社会的活動・地域貢献等を通して広く地域社会に寄与できる素地がある。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)

取	① 公開講座や産学連携、地域連携、高大連携などに関するニーズや課題を整理し、活用可能な社会資源を把握して具体的な連携活動につなげたい。
項目	<p style="text-align: center;">2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入</p> <p>1. 取組状況(Do)</p> <p>① 公開講座を開催し、また臨床・臨地実習施設の拡充により、知名度の向上を図った。また、高校からの「進路探究プログラム」を受け入れた。</p> <p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>① 公開講座の内容は参加者に大変公表であった。高校生1名を受け入れ、実験を通じて口腔環境の重要性を理解させた。</p> <p>3. 課題と次年度の改善目標(Action)</p> <p>① 公開講座は年1回開催しているが、参加者は少なく、十分な知名度を得ていないので、SNS等を活用し活動の周知を図り、参加者数を増加させる。</p> <p>4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)</p> <p>① 公開講座の周知に努力し、地域のコミュニティーを通じて、特に高齢者に対する、オーラルフレイル対策の啓蒙に寄与するなど、具体的な連携活動に繋げる。</p>
社会貢献	

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート5	評価対象年度	2021年度(令和3年度)
カテゴリー	教育課程		
アセスメント	卒業における学修成果アセスメントテスト		
学部・学科	短期大学部製菓学科、ビジネス社会学科、歯科衛生学科		

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
製菓学科	1. 確認基準 「和菓子」「洋菓子」「製パン」(製菓衛生師、実践コースに共通する座学)「食品衛生学」「栄養学」各分野における基本的な知識を測る、DPIに沿った問題を各分野8問(合計40問)出題する。 テスト形式(本年度はGoogle Classroomを利用)で確認する。
	2. 実施日 2022年2月1日午後1時00分より2時00分(1時間)
	3. 評価方法 各分野50%以上の正答率を合格基準とする。 合格に達していない学生には再テストを実施する。
	4. 結果 50名合格(卒業年次生全員)
	5. 達成度(S・A・B・C・D評価) S:100%、A:80%以上、B:50%以上、C:50%未満、D:実施できず S評価 (製菓衛生師:A評価、合格者26名、合格率92.9%)
ビジネス社会学科	1. 確認基準 学生が選択している各フィールド(秘書・ファイナンシャル、メディカル秘書、ファッション・カフェビジネス、観光・ホテル・ブライダルビジネスの4フィールド)について、それぞれのフィールドに設定されたテーマに沿って指定されたキーワードを使用しつつ文章を作成する。 ビジネス社会学科共通のGoogle Classroomのクラスを設定し、配布と提出を行う。
	2. 実施日 配布時期:2022年1月25日(火)~1月31日(月)期末試験期間 提出期限:1月31日(月)17:00まで
	3. 評価方法 各課題のキーワードのうち6単語以上を使用し作成する。 合格に達していない学生に対しては、再テストを実施する。
	4. 結果 対象学生91名中、合格者90名。合格基準に達しない学生1名には再提出させ、その後合格1名
	5. 達成度(S・A・B・C・D評価) S:100%、A:80%以上、B:50%以上、C:50%未満、D:実施できず S評価
歯科衛生学科	1. 確認基準 国家試験に対する準備状況を明確にすることで、卒業までの学びを総括するため、DHS模擬(歯科衛生士国家試験)試験をこれに充てる。
	2. 実施日 2022年2月1日午前9時00分より午後4時15分(6時間)
	3. 評価方法 合格基準を正答率60%以上とし、合格者には同試験問題に関する口頭試問を実施することで、フィードバックを行う。不合格者には再度同じ試験を実施し、合格基準を正答率90%以上とする。また、不合格者には、特別クラスを編成し、集中補講を行い、正答率90%以上となるまで指導する。
	4. 結果 受検者26名中、6名合格であった。不合格者20名については、2022年2月16日より、再試験および特別編成クラスによる集中講座を行った。
	5. 達成度(S・A・B・C・D評価) S:100%、A:80%以上、B:50%以上、C:50%未満、D:実施できず A評価 (国家試験合格者21名、合格率84%)

各種委員会

F D 実施委員会

教務委員会

学生委員会

就職・キャリア委員会

入試広報委員会

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	FD活動(新宿キャンパス)、全学FD研修会		
担当委員会・センター(構成員数)	FD実施委員会		
担当部署	教務部研究支援課、高等教育教育研究所		
記載責任者(役職)	今野裕之 大学新宿キャンパスFD実施委員長、小松由美 短期大学部FD実施委員長、今野裕之 高等教育教育研究所所長		
会議概要(実績回数)	キャンパス合同FD実施委員会(1回)		
添付エビデンス	2021年度 第1回全学FD研修会実施概要、2021年度 第1回全学FD研修会報告、2021年度 第2回全学FD研修会実施概要、2021年度 第2回全学FD研修会報告、2021年度 FD実施委員会(キャンパス合同)議事概要、目白大学・目白大学短期大学部 FD活動の目標		

項目	2020年度 自己点検評価
事業内容	課題と2021年度の改善目標(Action) ① 全学FD研修において、高い参加率を保ちつつ、教育力の向上・研究活動の活性化のため、研修内容を充実させる。 ② FD活動における人材育成の目標・方針、教員に求める能力を明確化する必要がある。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 全学FD研修会開催の周知を徹底する。未受講者に対し、受講を促すメールを送信する等のフォローを適切に行う。 ② 体系的にFD活動が実施できるよう、FD実施委員会において、FD活動の目標を定める。

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	1. 取組状況(Do) ① 第1回全学FD研修会を2021年9月10日(金)～9月17日(金)に開催した。研修内容としては、(1)コンプライアンス研修、(2)研究倫理教育、(3)研究成果報告、(4)授業と評価に関する研修を実施。参加者は各自、動画や資料を期間内にオンライン上で閲覧するオンデマンド形式での研修会とした。 (1)コンプライアンス研修では、副学長による研究活動に関するコンプライアンス教育講話があった。(2)研究倫理教育として、「目白大学人文社会科学系研究倫理審査委員会」及び「目白大学医学系研究倫理審査委員会」の両委員長より研究倫理審査についての説明があった。(3)研究成果報告として、13名の研究者による成果発表があり、参加者は2名以上の発表を閲覧することとした。(4)授業と評価に関する研修として、授業評価アンケートの結果等についての説明の資料が提示された。 ② 第2回全学FD研修会を2022年2月9日(水)にライブ配信で開催。その後、2022年2月9日(水)～17日(木)にオンデマンドでの配信も行った。研修前半は目白大学公開講座も兼ね、外務省 在スリランカ日本大使館公使/元・外務省 国際協力局地球規模課題総括課長の甲木浩太郎氏を講師に迎え、「地球規模で進む課題と人間社会:SDGsとこれからの教育」として講演会を実施。後半は、「共通教育改定と副専攻/ブランディング戦略とフィールド教育」と題してオンデマンド形式での研修とした。共通教育改定と副専攻について、両キャンパス共通科目の見直しと副専攻の制定についてを説明し、SDGs 副専攻とDX 副専攻の特色が紹介された。また、フィールド教育については、新宿キャンパス、さいたま岩槻キャンパス、短期大学部それぞれの実践事例報告がなされた。 ③ FD実施委員会(キャンパス合同)を2021年6月14日(月)に新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点からメール審議で実施した。2020年度「FD活動実施報告書」が報告され、2021年度全学FD研修会実施計画(案)について、2020年度の授業評価アンケートの公開について、2021年度の授業評価アンケートの実施(大学)についてを審議し、承認された。また、「目白大学・目白大学短期大学部FD活動の目標について」が提示され、当該目標に基づき、2021年度「FD活動実施報告書」を各学部・学科・研究科・専攻ごとに策定した。 ④ 各学部・学科・研究科・専攻から、2020年度「FD活動実施報告書」及び2021年度「FD活動実施計画書」の提出があった。 ⑤ 「目白大学・目白大学短期大学部FD活動の目標について」を制定した。
	2. 点検・評価(Check) ① 未受講者へメールで研修案内を送信し、受講を促すことで、第1回全学FD研修会の参加率は100%であった。研修後のアンケートにおいても、88%以上の参加者が各研修内容について「とても満足」又は「満足」と回答した。 ② 第2回全学FD研修会の参加率は、71.3%であった。84%以上の参加者が各研修内容について「とても満足」又は「満足」と回答した。 ③ FD実施委員会(キャンパス合同)はメール審議の形式のため、委員全員が参加することができた。 ④ すべての各学部・学科・研究科・専攻から2020年度「FD活動実施報告書」及び2021年度「FD活動実施計画書」が提出された ⑤ 新宿キャンパスFD実施委員長、さいたま岩槻キャンパスFD実施委員長、短期大学部FD実施委員長の連名で「目白大学・目白大学短期大学部FD活動の目標について」を制定し、FD活動における人材育成の目標・方針、教員に求める能力を明確化することができた。これにより、体系的にFD活動が実施できる体制が実現した。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action) ① 全学FD研修において、高い参加率を保ちつつ、教育力の向上・研究活動の活性化のため、研修内容を充実させる。 ② FDに関する企画立案及び実施体制の見直し及び教員向けSDの実施についての体制を整備する。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 全学FD研修会開催の周知を徹底する。未受講者に対し、受講を促すメールを送信する等のフォローを適切に行う。 ② 関連部署が連携し、FD及び教員SDに関する方向性を定め、実施体制を整備する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	教務支援		
担当委員会・センター(構成員数)	教務委員会(大学:25名、短大:3名)		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス教務部教務課		
記載責任者(役職)	雪吹 誠(学務部長(教務担当))、鎌田 京子(教務部長)		
会議概要(実績回数)	年11回		
添付エビデンス	①2021年度以降の授業実施方針について、WEBカメラの活用について②2021年度秋学期期末試験の実施について、③事前抽選科目について、④「臨地研修」に関する申し合わせ、2021年度「臨地研修」集計⑤2022年度シラバス入力について、2022年度シラバス執筆依頼について、2022年度シラバス点検依頼、⑥新型コロナワクチン学内接種に伴う公認欠席について		

項目	2020年度 自己点検評価
事業内容	<p>課題と2021年度の改善目標(Action)</p> <p>① 遠隔授業に対応しきれない教員へのサポートや、孤立する学生への対策が必要。感染対策に配慮しながらも十分な教育効果がある授業を行う必要がある。</p> <p>② 期末試験について、2021年度以降は授業の形式により試験パターンが多様となり複雑である。また、再試験申込み手続きのオンライン化が必要である。単位認定の適切性を十分に担保する必要がある。</p> <p>③ 抽選機能の意義が学生に十分に理解されておらず、抽選に当選したものの、その後取消を行う学生が多く、煩雑な事務手続きが発生した。また、これにより、本来、履修すべき学生が抽選に外れ履修できなかった事例が発生した。</p> <p>④ 「臨地研修」について、 ・担当学科にて学生が安全かつ有意義な研修を行えるように、事前指導を充実する。 ・「臨地研修」を積極的に奨励し、優れた研修を行った学生に成果報告会を開催する。また、ホームページ掲載も検討する。</p> <p>⑤ 学部のDP及びCPIに十分に則した科目構成となっていないケースや、分野に偏りがあるケースなど、カリキュラム改正にはには時間を要するが、議論を尽くして、丁寧におこなう。カリキュラムマップの作成や学修成果の可視化へとつなげていく。また、学生に対しても、順次、適切に開示し、活用を促していく。</p> <p>⑥ シラバスについて、シラバス執筆項目に合わせた点検ポイント(チェックリスト)の見直しを行う。</p> <p>⑦ フレッシュマンセミナーテキストについて、遠隔授業の受講方法に関する単元、肉体・精神等の保健衛生に関する単元などを盛り込むことを予定している。</p>
	<p>改善に向けての具体的な計画(Plan)</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症の状況に即座に対応できるように、流行状況と授業形態でマトリクスを作成し、きめ細かな準備を行う。</p> <p>② 期末試験がどのようなパターンとなるかわかりやすく図解により示す。また、再試験の手数料をコンビニ支払できるようにする。不正防止の案内を、遠隔試験に対応したものに更新する。</p> <p>③ 履修指導を丁寧に行い、抽選機能が適切に活用されるようにする。また、週末の人員を手厚く確保するなど、事務手続きが適切に処理されるようにする。</p> <p>④ 「臨地研修」について、コロナ禍においても、学生が安全かつ有意義な研修を行えるようにするため、キャンパス内に共通の理解を持つ必要があるとの認識より、臨地研修に関する申し合わせをアップデートし、教務委員会にて検討を行う。</p> <p>⑤ カリキュラムマップに基づき、科目がDP・CPIに即し、専門基礎力の分野に偏りがなくなるよう、議論を重ね、適切なカリキュラムとなるよう改正の検討を行う。また、適切な内容・バランスとなったものから、学生に開示する。DP・CPの一部である専門基礎力を育成するための学修成果の可視化から学生への履修指導の際に教員が活用し、学生にはカリキュラムマップの見方や活用の方法を丁寧に説明することを通して学びの体系化を促す。</p> <p>⑥ シラバスについて、ディプロマポリシーと整合した具体的な到達目標、適切な授業外学修、明確な成績評価基準などを学生等に対して明確に示すための資料として精度の高いものとする。</p> <p>⑦ フレッシュマンセミナーテキストについて、2022年度のテキスト改定に向けて2021年度も継続して検討していく。</p>

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>① ・遠隔授業を実施するため学修支援体制の整備を2021年度も引き続き行った。 ・2021年度は授業区分ごと(講義、演習、実技、実習)に、対面授業及び遠隔授業を行った(例:講義科目は遠隔授業、演習科目は対面授業など)。</p> <p>② 追・再試験時の手続きを全て遠隔で行えるよう変更した。</p> <p>③ 学生にとって公平な履修登録が円滑にできるように、キャンパスプランの抽選機能を用いて、通常の履修登録期間に先立ち抽選申込みの期間を設けた。</p> <p>④ 教務委員会にて、「臨地研修」の実施計画及び実施報告を承認し、単位認定を行った。また、2021年度より認定単位と研修時間を確認するため、「研修報告書」には研修時間の実時間数を記入することとした。</p> <p>⑤ DP・CPIに沿った教育課程の体系が学生に理解しやすいように、科目ナンバリング制度を2020年度より導入した。2021年度は2022年度共通科目カリキュラム変更に向け修正を行った。</p> <p>⑥ シラバスについて、内容点検作業(点検+再点検)を体系的に行った。</p> <p>⑦ 共通科目「フレッシュマンセミナー」、「ベーシックセミナー」は、2022年度カリキュラム改正により「ベーシックセミナーⅠ」、「ベーシックセミナーⅡ」と科目名が変更になるため、テキストも『ベーシックセミナーテキスト』に変更し、内容についても改正を行った。</p> <p>⑧ 2021年度に行った新型コロナワクチン学内接種について、対象学生の公認欠席処理を全てWeb申請にて行った。</p>
	<p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>① ・遠隔授業について、学生も教員も慣れてきており、通信トラブルも遠隔授業導入当初と比べ格段に減少してきた。 ・360度WEBカメラ(2台)の貸し出しを開始し、ゼミ活動等に活用した。</p> <p>② 期末試験および追・再試験の連絡が全てメール等での通知となり、確認不足により手続きができなかった学生がいた。</p>

- ③ 抽選機能について、科目抽選で当選した学生の登録削除希望があった。
- ④ 「臨地研修」について、
 - ・研修前に「臨地研修計画書提出届」を提出した学生について、教務委員会にて審議のうえ承認した。(2021年度:109件)
 - ・研修終了後に「臨地研修報告書」を提出し、教務委員会にて審議のうえ承認した。(2021年度:107件)
- ⑤ 2021年度は2022年度に向けて教育課程の体系が容易に理解できるように、科目間の連携や科目内容の難易度を表す番号をつけ、教育課程の構造を分かりやすく明示・修正した。
- ⑥ シラバスについて、授業科目区分ごとに担当責任者を定め、第三者によるシラバスの点検作業を行った。再点検を行い修正後確認をすることができた。
- ⑦ フレッシュマンセミナーテキストについて、初年次教育部会にて検討することとなった。
- ⑧ 学内接種について、学外接種をした学生が学内接種用フォームで申請をしてきた事例が見受けられた。

3. 課題と次年度の改善目標 (Action)

- ① 遠隔授業について、
 - ・感染対策に配慮しながらも十分な教育効果がある授業を行う。
 - ・新入生に対して遠隔授業の受講方法等十分な指導を実施をする。
 - ・遠隔授業のメリットを十分生かし、さいたま岩槻キャンパスとの合同授業の導入を検討する。
- ② 期末試験について、
 - ・追・再試験実施にあたり確認不足の学生が発生しないよう事前の周知を工夫する。
 - ・遠隔試験時の通信トラブル対応の見直しを行う。
- ③ 抽選機能について、抽選に当選したもののその後取消を行う学生が多く、煩雑な事務手続きが発生した。次年度以降、抽選科目の選定や時間割の配置を検討していく。
- ④ 「臨地研修」について、
 - ・実時間数を報告することにより、研修の実態を把握することができた。
 - ・引き続き2021年度も「臨地研修」を積極的に奨励し、優れた研修を行った学生に成果報告会を開催する。また、ホームページ掲載も検討する。
- ⑤ シラバスについて
 - ・学生が計画的に事前事後学習を行うことができるよう、事前・事後学習の「内容」および「学習に必要な時間」を明確に記入する。
 - ・遠隔授業を取り入れる科目については、各回ごとに授業実施形態を明示する。
- ⑥ 学内接種について、2022年度に第3回目の職域接種を予定している。学内接種者以外の学生が申請しないよう申請フローを改善していく。

4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)

- ① 遠隔授業について、2022年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の状況に即座に対応できるよう、流行状況と授業形態でマトリックスを作成し、きめ細かな準備を行う。
- ② 期末試験について、
 - ・教員による試験実施の申請から成績入力完了までの実施要領の充実、および教務課の期末試験業務の効率化をはかっていく。
 - ・教員・学生向けの遠隔試験時のマニュアルや通信トラブル対応のマニュアルを充実する。
- ③ 抽選機能について、現状、共通科目は分野横断科目、学際科目、異分野入門科目からそれぞれ2単位ずつの履修となっている。抽選対象科目の中には遠隔授業の科目もあるため、時間割の配置を工夫することにより抽選自体を回避できる可能性がある。2022年度以降の授業方針及び教務システムを含め検討を重ねていく。
- ④ 「臨地研修」について、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、オンラインでの研修もあり実施形態が多様化してきた。対面およびオンラインにも対応した効果的な実施及び指導ができるよう各学科で計画していく。
- ⑤ シラバスについて、ディプロマポリシーと整合した具体的な到達目標、適切な事前・事後指導、成績評価基準などを学生等に対して明確にし、学生の主体的な学習を促すための資料等作成をする。
- ⑥ 学内接種について、接種者のみ公認欠席申請ができるよう、接種日の受付時に申請用QRコードを紙面にて渡す。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	学生支援(厚生補導)		
担当委員会・センター(構成員数)	学生委員会(18名) ※事務局職員を除く		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス学生部学生課		
記載責任者(役職)	今林正明(学務部長学生担当)、高橋寛(学生部長)		
会議概要(実績回数)	10回		
添付エビデンス	学生委員会議事録/「なんでも相談室」関連資料/特定支援団体運営委員会資料/奨学金データまとめ/相談室利用状況/相談室関連資料/新入生書類WEB化資料/桐光会事業報告		

項目 2020年度 自己点検評価

事業内容	課題と2021年度の改善目標(Action)
	<p>① 「なんでも相談窓口」の認知度向上と、中途退学防止等の課題解決を意識した活動を、学科や他部署と連携しながら展開する。</p> <p>② 特定支援団体であるチアリーディング部について、JAPAN CUP2021、全日本学生選手権大会等への出場を見据え、競技力の向上と部員獲得に注力する。</p> <p>③ 修学支援新制度について、学生、保護者が理解できていない点が多い。特に、適格認定は家計状況だけでなく、学業成績も継続の条件となるので、教員も制度を理解する必要がある。</p> <p>④ 学生相談室について、コロナ禍で閉塞感を感じ、遠隔授業を受講することに対してストレスを感じている学生へ、多様な手段での学生支援を可能にする。</p> <p>⑤ 各種手続き、提出物等をWEB化したことにより、手続き方法(特に学生証用写真のアップロード方法等)に関する問い合わせが集中したため、学生対応に苦慮する状況が生じた。</p> <p>⑥ 保護者の教育後援組織である「桐光会」が給付する奨学金について、保護者のニーズの把握に努め、それに沿った形で桐光会奨学金制度の運用の改善に努めるとともに、必要に応じて制度改正を行う。</p> <p>⑦ 学内諸行事については、新型コロナウイルス感染のリスク低減のための方策(規模、方法等)について検討し、可能なものについては開催する。</p>
事業内容	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<p>① 「なんでも相談窓口」について学生への周知に努めるとともに、中途退学防止策については副学長を中心としたプロジェクトで検討している内容を試験的に実施していく。</p> <p>② チアリーディング部について、指導体制の強化(2021年度中にコーチ2名を追加採用)による技能向上をはかるとともに、部員獲得に向けチアリーディング部を有する高校との連携を強化する。</p> <p>③ 修学支援新制度について、対象者の情報(単位取得や出席状況など)を学科と共有する等、学科の協力を得ながら、対象学生への指導、支援に努める。</p> <p>④ 学生相談室が主催するグループワークや、Zoomを利用したランチミーティングの開催により、学生の孤立感を和らげる取り組みを行う。</p> <p>⑤ 学生証用写真のアップロード方法等について、事前告知の工夫と入試広報部と連携し、出願時の写真取り込み方法を再検討し、改善を図る。</p> <p>⑥ 「桐光会」の奨学金について、桐光会奨学金委員会等で提起された問題等を分析、検討し、保護者委員との協働を通じて運用の改善、制度改正等につなげていく。</p> <p>⑦ 学内諸行事については、大学祭のオンライン開催等、他大学の事例を参考に対応策を検討する。</p>

項目 2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入

事業内容	1. 取組状況(Do)
	<p>① 認知度向上のため、オリエンテーション、学生ネットサービス等を通じて学生への周知を図った。また、中途退学防止については、休学者へのフォロー、復学者へのフォローに加え、第3期中途退学防止プロジェクト(2022年度～)の準備作業(共有フォルダー作成、退学者アンケート等)に協力した。</p> <p>② 指導体制強化のため、コーチ1名(ダンス・コレオグラフィー)、トレーナー1名、管理栄養士1名を追加で採用した。(トレーナーは教員が兼務)</p> <p>③ 新規採用者リストを年3回(6月、12月、1月)、適格認定用の成績情報を年2回(9月及び3月)学科に提供した。あわせて、出欠登録徹底の依頼と制度概要の周知を図った。</p> <p>④ コロナ禍における遠隔・対面のハイブリッド授業実施の影響により、グループワーク、ランチミーティングの実施が困難になったため、その時間と枠組みを使って増加する個別相談の対応を行った。</p> <p>⑤ 学生証用写真のアップロード方法について、学科別・メール提出の形として収集方法を改善した。</p> <p>⑥ 奨学金支給の妥当性を担保するため、修学支援奨学金については、JASSO貸与型奨学金の借入等を申請条件とすること、多子世帯を支援対象とすることを柱とする規程改正を行った。なお、前者については、改正規程の施行(2022年度～)を待たずに、2021年度から重要な判断材料として運用した。</p> <p>⑦ コロナ禍のため多くの学内行事が中止となる中、学科、ゼミ、学生団体等の協力を得て、大学祭を初めてオンラインで開催した。</p>
	2. 点検・評価(Check)
事業内容	<p>① コロナ禍によりオンライン授業中心であったことが大きく影響し、相談件数は54件(前年度212件)にとどまった。中途退学防止については、前述の試行的取組みが第3期中途退学防止プロジェクトの実施計画(リスクの高い学生のデータを学内で共有し対処)作成に貢献できた。</p> <p>② 第23回関東チアリーディング選手権大会スピリッツ部門において優勝する等、短期間のうちに競技力が大きく向上した。</p> <p>③ 学科との連携が図られ、適格認定等、制度の運用が特段の支障なく円滑に行われた。</p> <p>④ 学生一人一人への支援を積極的に行い、支援の対応件数が過去最大となった。</p> <p>⑤ 学科別としたことで、未提出者や不備がある者に対する対応がきめ細やかに行え、問い合わせ件数も減少した。(データ収集までの段階については課題解決した)</p> <p>⑥ 申請学生の困窮度を測る上で、JASSO貸与型奨学金の借入の有無等が判断材料として有効に機能し、委員会審議の円滑化等につながった。</p> <p>⑦ オンライン開催への関心が高まらず、アクセス数は思うように伸びなかったが、教室での発表に比べ動画での発表の方が容易になる、事後一定期間コンテンツが視聴可能である等、オンライン開催のメリットも感じられた。</p>
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)

- ① 認知度向上を図り学生の利用を促すとともに、中途退学防止プロジェクトの「ハブ」としての機能を果たすことができるよう努める。
- ② 学校推薦型選抜(チアリーディング推薦型)に応募がなかった等、部員募集について大きな成果をあげることができなかった。
- ③ 個別支援に加えて大学全体の学生支援が可能となるプログラム実施を検討する。
- ④ データ収集までの段階については課題解決したと判断し、今後は集めたデータの取り扱いをより簡素化し、データ利用のしやすさ・拡張性を向上出来るように務める。
- ⑤ 改正規程にある多子世帯の解釈と運用に混乱がないよう対策を講ずる必要がある。
- ⑥ 新型コロナの感染状況等を見極めながら、本来の形である対面での開催について模索していく。
- ⑦ 来校での手続きを基本とする証明書発行について、利用者目線で利便性向上を図る必要がある。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ① 相談内容の分析、出欠状況の把握、学生相談室・障がい等学生支援室・保健室との連携等を通じて、高リスク学生について把握し、学内での情報共有を図る。
- ② 従来からの学校訪問等に加え、SNSを利用した発信力の強化等により、部員獲得に努める。
- ③ 学生生活を適応的に送っている学生も対象に含め、学生同士の交流を促すグループワークを実施する。
- ④ データ処理のスケジュールを定型化(定型文を利用、処理工程を整理する等)することで、作業の確実性と処理速度の向上を図る。
- ⑤ 多子世帯についての解釈について判断基準を設ける等して、2022年度以降の改正規程に基づく委員会審査が円滑に進むよう努める。
- ⑥ 感染対策の徹底、ハイブリットを含む開催形態の工夫、出展内容の範囲の検討等、コロナ禍における対面開催に必要な事項について具体的に検討する。
- ⑦ 学外(コンビニエンスストア)での証明書発行等について検討する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	進路指導		
担当委員会・センター(構成員数)	就職・キャリア委員会(32名)		
担当部署	就職支援部		
記載責任者(役職)	牛山佳菜代学務部長(進路担当)、鈴木あ久利(就職支援部長)		
会議概要(実績回数)	11回		
添付エビデンス	2021年度就職・キャリア委員会議事概要、内定者数一覧、キャリアブック、保護者のための就職活動支援ガイド		

項目	2020年度 自己点検評価
事業内容	<p>課題と2021年度の改善目標(Action)</p> <p>① 正課授業のキャリア教育について、「専門とキャリア」「仕事と社会」など、全学の正課教育科目を通して、本学独自のブランディングの上において支援を行える人材を獲得する。</p> <p>② 内定率について、内定が決まらないということ以外にも、就活の中で求人検索ナビを使いこなせていないため、状況が未登録のままの学生もいて、周知や指導が必要である。またすべて不採用となっても、そこからまた早く仕切り直しができるようにモチベーションを絶やさない工夫、講座や声かけが必要である。</p> <p>③ キャリア研修について、Zoomやオンラインによる状況に応じた形式での「キャリア研修Ⅰ」の実施を検討する。</p> <p>④ 個別の学生相談について、学生一人ひとりの就職・進学に対して、WEB相談やグーグルクラスルームを通じて、更に細やかな指導・助言を行う。</p> <p>⑤ 学生の状況把握について、年間を通じて、グーグルクラスルーム登録者数、就職内定率を就職・キャリア委員会にて報告し、振り返りを行っている。</p> <p>⑥ 正課外の講座について、グーグルクラスルームや求人検索ナビといったツールが、学生に使い易い仕様になっているかを確認し、改良を行う。「キャリアブック」に関しては、グーグルクラスルームへの搭載のみならず、手元に冊子としてあることへの要望があるため、双方用意する。</p> <p>⑦ 保護者対象就職説明会について、対面・オンライン・ハイブリットなど、その時の状況に応じたやり方で円滑に実施し、保護者の不安の解消に努める。</p> <p>⑧ 合同企業セミナーについて、WEB開催によるメリット・デメリットを確認しておき、今後対面でもWEBでも、良さをいかした運営ができるようにし、就職実績に繋げる。</p> <p>⑨ アンケートについて、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケートが未着手の大学部門については、2021年度に実施する。</p>
	<p>改善に向けての具体的な計画(Plan)</p> <p>① 正課授業のキャリア教育について、キャリア教育に係る人材確保のための予算確保と受入れ体制の確認をする。</p> <p>② 内定率について、基本的な求人検索ナビの登録の流れや操作法を適宜、講座や説明会においても周知徹底する。内定が決まらない学生への連絡や個別相談への誘導を丁寧に行う。</p> <p>③ キャリア研修について、初のオンラインによる「キャリア研修Ⅰ」を開催するよう、検討・準備を行う。</p> <p>④ 個別の学生相談について、J-netに都度記録を残すとともに、カウンセラーからのフィードバックを定期的に、部内および就職・キャリア委員と共有する。</p> <p>⑤ 学生の状況把握について、WEB面談予約・求人検索ナビへのアクセスが更に学生にとってスムーズになるよう、使う者にとって更に見やすく、わかりやすいものに改善する。</p> <p>⑥ 正課外の講座について、一連の本学就職対策講座については、参加人数や参加者アンケートの結果等の報告を適宜、部内と就職・キャリア委員会で行う。</p> <p>⑦ 保護者対象就職説明会について、事前に、様々な開催パターンに合わせて開催方法を検討しておき、計画的に実施する。</p> <p>⑧ 合同企業セミナーについて、Zoom開催の利便性を生かし、学科や職種などのニーズに応じた「合同企業WEBセミナー」の開催を検討する。</p> <p>⑨ アンケートについて、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケートを高等教育研究所IR部門と共同で実施する。</p>

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況(Do)	<p>① 正課授業のキャリア教育について、学部共通科目「仕事と社会」を担当する非常勤講師を1名採用し、2022年度春学期より講義を受け持っている。</p> <p>② 内定率について、開催講座やゼミ訪問なども利用して、迅速な進路報告を学生に促し、内定状況の報告は月次、就職キャリア委員会にて行った。また講座参加学生は、「求人検索ナビ」から直接、申し込みができるようにして、「求人検索ナビ」の認知度を高めた。</p> <p>③ キャリア研修について、コロナ禍の環境の中、初のオンラインによる「キャリア研修Ⅰ」を夏と春の2回実施し、36名が参加した。</p> <p>④ 個別の学生相談を3003件行い、J-netを通じて面談情報はすぐに相談記録に入力し、スタッフ間での保持と共有が図られている。</p> <p>⑤ 学生の状況把握について、春学期・秋学期それぞれに、卒業年次生には就職支援部スタッフによる総電話作戦を行い、希望進路や就活状況を確認している。</p> <p>⑥ 正課外の講座について、毎月10講座程度、就活に役立つ様々な講座につき、授業と試験のスケジュールも考慮し、時間帯や実施方法を工夫して実施している。</p> <p>⑦ 卒業年次に前の年に保護者対象就職説明会をオンデマンドでの全体会および学科別説明会を実施し、その周知時には1255名の保護者に向けて就職活動に関する冊子を作成して同封した。</p> <p>⑧ 合同企業セミナーについて、Zoomによる合同企業ウェブセミナーを2月、3月、4月に開催し81社が参加した。</p> <p>⑨ アンケートについて、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケートを高等教育研究所IR部門と共同で実施した。</p>
2. 点検・評価(Check)	<p>① 正課授業のキャリア教育について、学期を通じた講義および成績評価ができ、一貫したキャリア教育ができています。</p> <p>② 内定率について、就職キャリア委員会にて月次の内定率を報告し、キャリア委員との連携のもと、進捗を促している。最終的な5月1日時点の内定率は、98.2%であり、昨年度よりも+4.3%増加している。</p> <p>③ キャリア研修について、定員20名に対して、夏は26名、春は応募者が倍増し、51名から選抜してオンラインで実施。研修後の「キャリア意識の発達に関する効果測定テスト(Career Action Vision Test: CAVT)」では、学生のプログラムへの満足度は5点満点中4.7~5.0であった。</p> <p>④ 個別の学生相談について、レポートして訪れるが、内定などの結果に繋がりにくい学生には特に丁寧に対応し、添削や面接練習など繰り返して内定に繋げるよう心がけた。</p> <p>⑤ 学生の状況把握について、個別確認や総電話作戦は、学科やキャリア委員とも連携して実施しており、状況把握の結果、不明者をゼロにすることができた。</p> <p>⑥ 正課外の講座について、各回ともに事後のアンケートをとり、それに基づき、課内ミーティングで共有し、振り返りを行っている。</p>

- ⑦ コロナ2年目でオンデマンド全体会視聴数は低迷したものの、アンケートの回答数は少ないながらも、結果は良好であった。
- ⑧ 合同企業セミナーについて、Zoomによる合同企業ウェブセミナーでは、参加企業数は対面時より約1.4倍に増加し、学科や職種などの学生のニーズに応えることができた。
- ⑨ アンケートについて、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケート結果をHPにて公表した。

3. 課題と次年度の改善目標 (Action)

- ① 正課授業のキャリア教育について、新たに「キャリア演習」を科目に加え、より内容の充実をはかる。
- ② 内定率について、各月ごとに前年との比較を徹底、分析し、適切な対策を講じていく。
- ③ キャリア研修について、履修した個々の学生について、その後就職活動での活動量に繋がっているかを追跡する。
- ④ 個別の学生相談について、内定ができるまで丁寧に対応することは基より、配慮が必要な学生、障害をもつ学生に対しては、学生相談室および学生課とより密に連携し、適切な支援をしていく。
- ⑤ 学生の状況把握について、より円滑に、漏れなく行えるよう、学生からの内定報告や進路希望提出について大卒の仕組み作りをして、効果的に周知する。
- ⑥ 正課外の講座について 必要とする学生に必要な支援が届くよう、厳選した講座を効率よく実施する。
- ⑦ 保護者対象就職説明会について、オンデマンドのアクセス数は少なくとも、充実したガイダンスの冊子により、保護者に理解を進めてもらう。
- ⑧ 合同企業セミナーについて、Zoomと対面の経験値を活かして、今後学生に対して効果的なセミナーを検討する。
- ⑨ アンケートについて、2022年度も継続して、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケートを実施して、推移を比較検討する。

4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)

- ① 正課授業のキャリアデザイン科目関連について、専任教員の配置を検討し、教育内容の更なる充実をはかる。
- ② 内定率について、学生の求人検索ナビへの登録を強化し、早い時期から実態を掴めるようにしていく。
- ③ キャリア研修について、キャリア研修Ⅰの研修先企業の選定を本学学生に合ったものとする。
- ④ 個別の学生相談について、障害学生の授業受講や講座参加がスムーズにできるよう、更にセンターの経験値を増やすため、課員はセミナー等を受講する。
- ⑤ 学生の状況把握について、3年就職活動解禁前までの進路希望提出の周知と4年春学期中に活動継続の有無を電話かけ等により適切に把握する。
- ⑥ 正課外の講座について 参加者数の多い、3大ガイダンス(インターンシップ、キックオフ、直前)からの流れを効果的に使った就職支援講座を実施する。
- ⑦ 保護者対象就職説明会について、冊子を送るとともに、対面の全体会と学科ごとの説明会を開催し、保護者への本学キャリア教育の認知度を高め、就職活動への不安を軽減する機会として位置付ける。
- ⑧ 合同企業セミナーについて、これまでのZoomを中心に合同企業ウェブセミナーを継続し、ピンポイントで対面の合同企業セミナーの機会を合わせて検討する。
- ⑨ アンケートについて、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケートについて、項目ややり方に齟齬がないか検討・確認する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	学生募集		
担当委員会・センター(構成員数)	入学センター(14名)ノ新宿キャンパス入試広報委員会(28名)		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス入試広報部		
記載責任者(役職)	太原 孝英(入学センター運営委員会委員長)ノ鷲谷 正史(入試広報委員会委員長)		
会議概要(実績回数)	入学センター運営委員会(6回)ノ入試広報委員会(9回)		
添付エビデンス	入学案内、各種募集要項		

項目	2020年度 自己点検評価
事業内容	<p>課題と2021年度の改善目標(Action)</p> <p>① 募集活動について、対面式の進学ガイダンスは受験生の情報源であるため、積極的に参加する。高校教員への情報提供を重視し首都圏を中心に訪問する。高校教員対象説明会は、教員からの要望が多いことから学科教員及び入試職員との相談は対面式とし、説明会は感染予防の観点からWebによる配信とする。</p> <p>② 試験日程は、2021年度を踏襲するが、全学部統一選抜については他大学との日程重複を避けるため1/30(日)に設定し、出願者数増を目指す。また、文科科学省の感染予防対策ガイドラインを遵守し、入学者選抜を実施する。</p> <p>③ 本年度も総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者確保は重要であるため、受験生や高校教員にむけて継続的かつ複合的な情報提供を行う。</p> <p>④ 一般選抜においては、受験生に併願校として選んでもらうために本学を知ってもらうことが重要であるため③と同様の情報提供を行う。また、前期日程の入学者数は大きな割合を占めるため、入学者数の確保と偏差値の維持を視野に入れながら慎重に可否判定を行う。</p> <p>⑤ OCの実施形態の決定プロセスに基づき、ハイブリッド型OC又は完全オンラインOCのいずれかを実施する。</p> <p>⑥ 本学HPの受験生応援サイトに、2020年度に充実させた動画のノウハウを継続し、受験生の動向に即したプログラムを随時発信する。オープンキャンパスへ来場できなかった受験生にむけて、Web上で必要な情報を提供することに注力する。</p> <p>⑦ 2022年度入学者選抜にむけた制作物は、最新の受験動向を踏まえて競合校を意識した内容を念頭に検討を進める。</p> <p>⑧ 広告媒体については、受験サイト(電子媒体)から本学の受験生応援サイトにアクセスしやすい環境整備を行う。</p>
	<p>改善に向けての具体的な計画(Plan)</p> <p>① 募集活動について、受験生の受験校選定には入試種別に関わらず高校教員の存在が大きいと、首都圏の高校を中心とした訪問を行う。進学ガイダンスは、積極的に参加し受験生と接触を図る。</p> <p>② 入学者選抜について、2023年度入学者選抜の日程(2021年度中に審議・決定)は、年内入試は2022年度入学者選抜を基に、一般選抜は受験生が併願しやすい日程を検討し調整を図る。</p> <p>③ 総合型選抜、学校推薦型選抜の志望者は、直接キャンパスへ足を運ぶことでより志望度が高くなる傾向にあるため、オープンキャンパスでの満足度があがるような企画を実施する。</p> <p>④ 一般選抜の志望者は、進学ガイダンスにおける説明、受験媒体やHPの情報から志望校を検討しており、これらをもとに高校教員と相談の上、併願校を決定している。そのため、これらに漏れがないように情報発信を行っていく。全学科1.19倍の入学者確保を目指す。</p> <p>⑤ OCについて、受験生は、高校の授業が対面式であるため、対面式のOCを望んでおり、感染予防対策を講じつつ、より多くの受験生を受け入れられるように体制を整備する。また、開催時期によるコンセプトを明確にして、魅力ある企画を目指す。</p> <p>⑥ 受験生が情報を収集する上で本学HPの受験生応援サイトの重要性が増しているため、引き続き魅力ある内容を提供するほか、わかりやすさ等にも配慮する。</p> <p>⑦ 入学案内等の制作物について、電子媒体とのバランスをとりつつ、それぞれの特長を生かしながら制作する。</p> <p>⑧ 広告媒体については、電子媒体は媒体毎に資料請求状況が集計できるため、集計状況、費用対効果等の検証を行い、総合的な評価が低い媒体から高い媒体へ切り替えを行い、効率的な広報を実施する。</p>

項目	2021年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況(Do)	<p>①【募集活動】高校訪問、進学ガイダンスへの積極的参加(4~12月、3月)、高校教員対象説明会(6月)の実施。</p> <p>②【入学者選抜日程】日程は原則的に前年度を踏襲し、全学部統一選抜は受験生確保のため1月30日に前倒した。また、入試種別毎に確保目途を設定した。前年度に引き続き、入学者選抜の実施において、新型コロナウイルス感染予防対策及び新型コロナウイルス感染者等への配慮措置を実施した。</p> <p>③【年内選抜(総合・推薦)】安全志向の受験生を取り込むべく、年内入試(総合型、推薦)での入学者確保を目指した。</p> <p>④【一般選抜】中期・後期日程の受験者数の減少を見込み、前期日程における合格者を出すように各学科と調整を図った。</p> <p>⑤【OC等】新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、来場型とオンラインを併用したハイブリッドOCを計6回開催した。東京オリンピック開催に伴い、8月の日程の重複を避けるため、2日間の実施から1日に変更し、代わりに5月に実施(感染拡大のためオンラインOC)した。11月は、オンラインで一般選抜対策講座を開催した。</p> <p>⑥【HP(受験生応援サイト)】入学案内など、紙の制作物に掲載している内容・デザインとリンクさせ、受験生の進路選択の時期に合わせた情報を更新した。また、受験生の9割近くが使用しているスマホからの閲覧を念頭に見やすいデザイン・表現を意識して制作した。</p> <p>⑦【制作物(紙)】新型コロナウイルス感染予防に努めながら次年度入学案内等を制作した。</p> <p>⑧【広告】Web媒体とDM等の既存媒体の併用</p>
2. 点検・評価(Check)	<p>①【募集活動】高校訪問及び進学ガイダンスは、首都圏を中心に行なった。高校訪問:577件、進学ガイダンス:177件。コロナによる訪問自粛やガイダンス中止により活動が制限された2020年度に比べて、多くの高校教員や受験生に接触できた。高校教員対象説明会(6月)は、56校が来場した。</p> <p>②【入学者選抜日程】年内入試は前年度の日程を踏襲した。全学部統一選抜の実施日を前年度競合が多く減少した2月2日から1月30日に変更することで他大学との重複を回避できた。また、新型コロナウイルス感染に伴う振替受験が発生し、25名に適用した。(全学部・一般A→一般B24名、一般B→一般C1名)</p> <p>③【年内選抜(総合・推薦)】入試種別毎に確保目途を定め年内選抜に移行したが、他大学も同様の動きを見せたため、入学者は前年を下回った。(対前年:大学93%、短大97%)</p> <p>④【一般選抜】前期日程の合格者を増やし入学者確保を目指したが、一般Aや共通テストAの志願者数が伸びなかった。また、中期、後期の志願者減少と他大進学を理由とした辞退の影響により、大学の入学定員超過率は95%だった。短大は、年内入試で確保でき107%だった。</p>

- ⑤【OC】感染予防対策を取りつつ、4月から予約制で実施した。当初は対面授業を行なっていなかったこともあり慎重な人数制限を設けていたが、ノウハウを積み徐々に来場者数を増やしていった。(全来場者数4,563名、オンライン申込者数1,923名)
一般選抜対策講座は、あえてWeb開催とすることにより、大教室の開催よりも多くの視聴者を受け入れることができた。(出席者数における2019年度比:125%)
- ⑥【HP(受験生応援サイト)】「学び体験」、「総合型選抜体験談」の動画掲載、「ゼミNavi」の新規ページ追加などWeb上のコンテンツを充実させた。スマホの操作性を向上させる画面作りに着手した。
- ⑦【制作物(紙)】新型コロナウイルスの感染状況を視野に入れつつ、大学、短大の学びを表現した。
- ⑧【広告】受験生のスマホ利用を意識して、Web媒体の活用を増やした。

3. 課題と次年度の改善目標(Action)

- ①【募集活動】進学ガイダンスは受験生の情報源であるため、3年生対象だけでなく1、2年生対象も参加する。高校訪問は、首都圏を中心に訪問する。高校教員対象説明会は、引き続き実施する。
- ②【入学者選抜日程】2021年度の日程を踏襲する。
- ③【年内選抜(総合・推薦)】本年度も総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者確保は重要であるため、受験生や高校教員にむけて継続的かつ複合的な情報提供を行う。
- ④【一般選抜】受験生に併願校として選んでもらうため、③と同様にこまめな情報提供を行う。また、前期日程の入学者数は大きな割合を占めるため、入学者数の確保と偏差値の維持を視野に入れながら慎重に可否判定を行う。
- ⑤【OC】OCの実施形態の決定プロセス(新型肺炎対策本部会議の承認)に基づき、ハイブリッド型OCを前提としてより多くの来場者を迎え入れる体制を整える。
- ⑥【HP(受験生応援サイト)】本学HPの受験生応援サイトに、2021年度に充実させたコンテンツを活かし、受験生の動向に即したプログラムを随時発信する。オープンキャンパスへ来場できなかった受験生にむけて、Web上で必要な情報を提供することに注力する。
- ⑦【制作物(紙)】2023年度入学者にむけた制作物は、最新の受験動向を踏まえて競合校を意識した内容を念頭に検討を進める。
- ⑧【広告】進学情報サイト(リクルート、マイナビ、ベネッセ等)やSNSから本学の受験生応援サイトに誘導する環境整備を行う。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ①【募集活動】高校訪問は引き続き首都圏を中心に行なう。訪問にあたっては、直近の入学実績のほか、OCの来場者の状況などの情報を活用する。
- ②【入学者選抜日程】入学者選抜について、2024年度入学者選抜の日程(2022年度中に審議・決定)は、年内入試は2023年度入学者選抜を基に、一般選抜は受験生が併願しやすい日程を検討し調整を図る。
- ③【年内選抜(総合・推薦)】総合型選抜、学校推薦型選抜の志望者は、直接キャンパスへ足を運ぶことでより志望度が高くなる傾向にあるため、オープンキャンパスでの満足度があがるような企画を実施する。
- ④【一般選抜】一般選抜の志望者は、進学ガイダンスにおける説明、受験媒体やHPの情報から志望校を検討し、高校教員と相談して併願校を決定している。そのため、これらに漏れがないように情報発信を行っていく。全学科の入学者定員確保を目指す。
- ⑤【OC】開催時期によるコンセプトを明確にして、魅力ある企画を目指す。
- ⑥【HP(受験生応援サイト)】受験生が情報を収集する上で受験生応援サイト(特にスマホ)の内容が重要であるため、引き続き魅力あるわかりやすい内容を提供していく。
- ⑦【制作物(紙)】Web媒体とのバランスをとりつつ、それぞれの特長を生かしながら制作する。
- ⑧【広告】高校の進路指導で活用されている進学情報サイトは受験生の重要な情報収集元であることから、ここからHPに誘導する導線づくりを強化し、効果的かつ効率的な広報を実施する。

2021 年度 目白大学短期大学部 自己点検評価年次報告書

編集：目白大学・目白大学短期大学部内部質保証委員会（短期大学部会）

発行：2022 年 9 月

